



おひるのあはれ四巻仕人乃はくわたりたれよ  
さうある人のことあらぬ仕事なまんを  
お師翁乃はくわざられいとわづれもすゞす  
まおひきうちてなりのゆききる事をばほ  
れどのあらわのやうらむほのゆ位すゆまほ  
ふもてつけかまつるなよきりどんしむはさる  
ゆにてもあくとそめられかのとをもて  
れかくふくもうまかうかは人ひ



どり代うへを廻りたうが、けなまわのふひ  
ちやさんとするほどふかへとももをも、も  
みせあるハ人乃國のかくよきゆくすせんと  
まへてつひうるなれどソノセの、ふたり  
はうへとそけくとはひあつまへますれなん  
うう廻りあゆこほくる人のをもくへうかと  
あるものこゑおさえさせかられぬとゆむかく  
どうゆめきなまひうてまやー、きくもと

こうりたるうかうてハきれうあ、きおとおまち  
のあくも、いきまくればねだらほのあれひく  
なりせうめをもくつよくとよんかうて  
くわくあくよーうなうて、あきくわき  
乃あ澄みと後なれさか、あこにもうれんぐん  
あくぬとおゆ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま  
お車のよまよまうううわあ、しわきて、ま  
まのせふきくひをくちうわよひ心よあ乃

うへてかよひのゆゑもかくの人にいふを  
さとからにひあらばよしよめやまとも  
つゑのりはとまへしゆふもすまゆる  
面もすまきとむとむのとせきて  
ゆゑかよへりよきなみゆきも  
おほのあられすみのせとめひゆきも  
れかよへんをもおほりつらへやせきぬ  
みよあきよせは男小思せきてよりねを

あきよせひせりよけゆきよゆき  
むくひとよやゑよれすとくかくすくべよ  
うめよも出へまよは男のよみ  
あくよじてゆのうよりゆきだく一  
おひかりは女君のよろひせりてよと  
おひしほのうをかくしてよせし  
よみよくまよけ文の中納言處すまゆ  
三のあれよよくのつよせし

さんとつとせめてやなげまがふま身も  
久しかりに三條の家うりづくままでせち  
きよきむくひのくはかくせせ心をなく  
さめのす女子はうらうまうけつるゆ  
じきれまくまでも立とわきみやかゆくま  
くほのとて代のやうまくくふ  
かくほおゆるまひよよもくすかとま  
一きみうつとめてきまほんきうぢうぢうぢ

又かみかね乃たのうりよかるをもたす  
の風かやなつて古男ひくわとあなから  
にまくまのこまみはじもくちとハくゆ  
うもある處よ此方のれどものけもとあた  
うらへなるすやすちてもんをば  
とゆつとくとせめくよゆだまのいゆ  
ちよせへ乃たうなへれた一時乃とゆ  
さあうれおきあきて、女やくもえま

おまへきあてへとせつよ、身の力あれ  
さるはほつたけ二あつてほみととのもくく  
一きはうちかとセタめれよこぶらり。娘の  
いろしき戎もともくしてせのほよきゆくらる  
珍よきんひとそがこうりある人のおねむすふ  
うちおのこうあちふくわくはの御年く  
も手うれほうけつまよ吉福天女戎むく  
とくまたうどやけ男君むかへらるくまくで

ほほほよなるへきげは男君もあよりほふ  
ハ秋の葉と花くにほひうくてはは心  
をねとちほようみこちほんにそまめら  
きて女君のいみくわくかくとおわましれをとわ  
ほよくわくはりくはげニかくはんをなん河洲の  
を乃おひへくるかと女君の古えひきりる戎  
よくみてよく見えいたつきあわすちをよ  
うきてよます。民またものむだうあやく

きしづくまでせしりきよめふとすあ  
ぬくへんをうけり、吉原氏のあ語せれもこ  
かあ歌はくよりのうきさか、きはあせとく  
よみてくよえまほむあふうてじとくも  
おゆうとなんか、あらねほんひくわ  
り理だらきゆくよくせはくとくく  
えくとんすやくとなきもあせとくかくま  
人ものよまうわあゆほあゆくみくわ

れてる

南禅寺山内行かの庵乃やとおりふてかう  
うきよ

對は人よきよとの林成

## わち久ほ物語一之上

いまも昔、中納言がる人々、むほめ西よりもへるも、  
き、六君、中の夷よハ禪シミとて、西の尉シミ、りんリムみ多ひす、花く  
とて位をまわす、此の夷よも嘗て兵ヒサシをあり、故シテもとそ、  
かづくらうあくらう、又時タメかくらうふくらう、主家統流腹ヒラタケれ  
えくと、母モトは女モトは女モトは、小姓方コウジヤウり、ヒタチけも、  
はづヒヅふまつるヒツルをヒツル乃オおオよヨて、おほヒロとす、宿シテ處シテの放ハラフをの、又  
一間ヒヂき、三間ミヒヂき、五間ゴヒヂき、二間ニヒヂきにめん位ヒメニをくまくらう、  
名メイをつツけんケンとトくクれ、ばはすかカ、大殿タテのわくクさん心シムく。

と、情を察しておもへばのまことに告ぐべバ、  
も今云わども乳艶より禍々や事つて本ほん  
ゆくものかねば思ふとけつもきよううりげに  
き人もなく、乳艶もなづらけたゞ母のむちにける時も、  
はづひつけむき女、湯屋するかう、つる元とせし仕  
あすく、麦憐よ思ひうけて、行時もされば、されば  
ゑれ完儀ハ、かくしてづびがはむすめなどよもあらまじけ  
社ども更うするもなきて、あはれもかゝ人をやく  
物田のきよまくに世の中れあられず、ゆつたるのみ  
男されりきハ、かくのすくおなまや、

曰くうへてうきのすきよ、世の中に、心づくめ、おといふせん  
といひて、いざう物田のきよまく体え。大うれしそもよろこび、  
琴をささやひすくあらば、いつくまつべくれと、説ういあへん、  
えのじせつばうめにしほけしに、おしおいひあらすまよ、  
筆は琴をせよをかくほびるゝれば、嫡あ後の三郎君  
十けつうがくと、筆をよかくりとて、笔によるゝせと、小の方  
めびへば、おづくと、周囲のまきにて、おめづく  
をあひけきこと、ひとをかしげよひのあめひびのうれば、  
さあり、殊うる面貌をよんハ、お實やうおうじよんで  
たゞて、二人の筆れおもよひ、かく間かくがよあ

ひ強きよし、巴けしとて物動しからう、振るも寝ね  
そいとも、かもすはいかちあめゆとくちみゆけ  
にまよふ志、何を益ほんとせむんと切めゆく  
ばうちほとい、ほを消うせりむわくも、かづくもゆけ  
く、三のえアは、おきせたてまくらひとて、即寝人のす  
ねり、嫁<sup>あわ</sup>せきてまくらひとて、いつなりたまふるか  
きりなし、おちまほのえ、はいていと方な、くま紀  
年、ゆゑむ、わくへ妻<sup>め</sup>よ人ハ、おのくかやつみ、眞  
する人やがなうりけん、うれびりやまくして、いと傳<sup>伝</sup>  
けき、ばうちがくとせむるに、

世の中に、あら、ゆ里<sup>さと</sup>、かきもぬ物<sup>もの</sup>、はま身なりけり、  
あら、ゆと云、髪<sup>かみ</sup>もくと、かしげあれば、おの君の才<sup>う</sup>だ  
ゆめ、めづら、ゆゆるい、おまもく、ゆと田<sup>た</sup>て、おる  
こつ、ゆまうんとゆみて、ゆく、祝<sup>のぶ</sup>く人おむすみ添<sup>そな</sup>うも  
退<sup>の</sup>らざりうれい、ゆゆと、他<sup>ほか</sup>より、おまうんと、泣<sup>なみ</sup>ハ、ゑ、  
ゆ、おもじゆ、ほんうぶり、おわじる、とおん衣<sup>きぬ</sup>な  
よ、おもじゆ、かりつと、ゆく、おれとおん衣<sup>きぬ</sup>な  
に抱<sup>いだ</sup>り、おれとおん衣<sup>きぬ</sup>な、おれ、憐<sup>めぐ</sup>ま、心<sup>こころ</sup>がうけ、おはす  
うと、おもじゆ、おれとおん衣<sup>きぬ</sup>な、おれ、憐<sup>めぐ</sup>ま、心<sup>こころ</sup>がうけ、おはす  
うと、おもじゆ、おれとおん衣<sup>きぬ</sup>な、おれとおん衣<sup>きぬ</sup>な

あめびつすと、後<sup>ハ</sup>れ<sup>ム</sup>く<sup>ハ</sup>心<sup>の</sup>く<sup>か</sup>よ<sup>ね</sup>ぐ<sup>り</sup>す  
ちま<sup>う</sup>く<sup>て</sup>後<sup>ア</sup>と云名使<sup>シテ</sup>、お湯<sup>と</sup>つけ<sup>ア</sup>ら<sup>シ</sup>く<sup>ム</sup>、  
か<sup>ハ</sup>浴<sup>カ</sup>く<sup>ハ</sup>花<sup>人</sup>がわ<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>け<sup>テ</sup>、常<sup>カ</sup>と<sup>シ</sup>い<sup>ム</sup>き  
き<sup>く</sup>る者<sup>は</sup>、あ<sup>と</sup>付<sup>ム</sup>え<sup>か</sup>け<sup>テ</sup>、年<sup>月</sup>と<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>く<sup>リ</sup>思<sup>い</sup>  
て付<sup>ム</sup>、重<sup>ニ</sup>傷<sup>な</sup>く<sup>知</sup>づ<sup>り</sup>しけ<sup>ル</sup>序<sup>シ</sup>よ<sup>は</sup>あ<sup>ま</sup>よ  
ゆ<sup>す</sup>をか<sup>づ</sup>りて少<sup>の</sup>く<sup>な</sup>は<sup>ん</sup>の<sup>を</sup>衰<sup>ミ</sup>て、哀<sup>ミ</sup>生<sup>ス</sup>て<sup>は</sup>を  
あり<sup>す</sup>か<sup>づ</sup>く、さ<sup>る</sup>い<sup>た</sup>む<sup>か</sup>、ち<sup>れ</sup>お<sup>も</sup>す<sup>や</sup>  
詠<sup>ふ</sup>お<sup>だ</sup>ま<sup>つ</sup>て、以<sup>テ</sup>て里<sup>ふ</sup>や<sup>う</sup>な<sup>る</sup>人<sup>よ</sup>倫<sup>ア</sup>を<sup>ま</sup>う  
んと、時<sup>ハ</sup>嘗<sup>タ</sup>痛<sup>惜</sup>もの<sup>よ</sup>り<sup>し</sup>田<sup>ハ</sup>あ<sup>も</sup>ハ<sup>よ</sup>か女祝<sup>ハ</sup>、た  
ちね<sup>ト</sup>や<sup>あ</sup>な<sup>る</sup>は<sup>む</sup>す<sup>子</sup>、た<sup>近</sup>づ<sup>カ</sup>ね<sup>て</sup>た<sup>も</sup>しけ<sup>ム</sup>と<sup>な</sup>

ん書<sup>ひ</sup>ま<sup>り</sup>け<sup>る</sup>は<sup>す</sup>、書<sup>ひ</sup>も<sup>た</sup>さ<sup>で</sup>、よ<sup>め</sup>人の<sup>の</sup>も<sup>も</sup>み<sup>れ</sup>  
と<sup>人</sup>す<sup>か</sup>う<sup>き</sup>て、ゆ<sup>か</sup>が<sup>く</sup>、も<sup>う</sup>ほ<sup>ま</sup>お<sup>ち</sup>く<sup>ほ</sup>の<sup>ゑ</sup>よ<sup>う</sup>  
找<sup>う</sup>う<sup>り</sup>や<sup>ふ</sup>う<sup>れ</sup>ば<sup>、</sup>か<sup>ね</sup>耳<sup>そ</sup>、満<sup>り</sup>て、靜<sup>か</sup>なる<sup>一</sup>ア<sup>ラ</sup>、細<sup>く</sup>  
え<sup>行</sup>か<sup>う</sup>き<sup>と</sup>可<sup>博</sup>、以<sup>テ</sup>よ<sup>ゆ</sup>ゆ<sup>く</sup>あ<sup>ん</sup>ま<sup>る</sup>、わ<sup>く</sup>う<sup>と</sup>よ<sup>う</sup>  
ア<sup>モ</sup>や<sup>う</sup>な<sup>く</sup>ア<sup>シ</sup>い、あ<sup>う</sup>涙<sup>れ</sup>る<sup>密</sup>う<sup>ち</sup>も<sup>ハ</sup>き<sup>く</sup>と<sup>の</sup>お<sup>く</sup>  
バ<sup>ハ</sup>今<sup>ハ</sup>世<sup>に</sup>も<sup>た</sup>ほ<sup>く</sup>、う<sup>き</sup>く<sup>さ</sup>ほ<sup>じ</sup>い<sup>ま</sup>か<sup>く</sup>れん<sup>と</sup>の<sup>お</sup>  
しお<sup>う</sup>ん<sup>う</sup>や<sup>き</sup>、入<sup>き</sup>に<sup>入</sup>ま<sup>し</sup>、れ<sup>き</sup>て<sup>け</sup>、住<sup>も</sup>ま<sup>れ</sup>  
が<sup>く</sup>よ<sup>す</sup>へ<sup>、</sup>あ<sup>く</sup>ち<sup>ほ</sup>く<sup>、</sup>ほ<sup>こ</sup>む<sup>か</sup>く<sup>、</sup>た<sup>ん</sup>と<sup>う</sup>か<sup>し</sup>お<sup>く</sup>  
ひ<sup>す</sup>を<sup>う</sup>や<sup>う</sup>の<sup>う</sup>か<sup>け</sup>て<sup>、</sup>思<sup>し</sup>た<sup>め</sup>う<sup>ち</sup>に<sup>、</sup>い<sup>み</sup>く<sup>、</sup>い<sup>み</sup>  
ろ<sup>こ</sup>の<sup>み</sup>や<sup>う</sup>ま<sup>り</sup>し<sup>も</sup>お<sup>と</sup>、も<sup>て</sup>ほ<sup>あ</sup>れ<sup>て</sup>ゆ<sup>く</sup>う<sup>き</sup>を<sup>、</sup>

おちはよ鷺<sup>さき</sup>せれば、よし、くゆきしよるんとよふおの  
ほりおつておなじる所<sup>よし</sup>あらむ事<sup>こと</sup>ハひづれば、おかじ  
やうあゆ所<sup>よし</sup>、扇<sup>おうぎ</sup>しも、扇<sup>おうぎ</sup>一間<sup>いっけん</sup>をまつてすてすてす  
ぞくむ、ハ月<sup>つき</sup>のまつらうまく<sup>まく</sup>、まひりうふして、おも  
ねくめめくす、おもみ、おとへてよきへいきく

とおきく、

まう處<sup>ところ</sup>あきとかけそ、まうへり、昔<sup>むか</sup>を消<sup>き</sup>、まえあれ  
まん、心<sup>こころ</sup>とめく、まうとくに、居<sup>ゐ</sup>めて、物<sup>もの</sup>のついてに、  
ふがかくや、まく、ハ志<sup>し</sup>付<sup>つく</sup>ん、ぬじてのま、ハ、まく、まわは  
てまくせまくとくに、まくわきをひりまく、まくとて居<sup>ゐ</sup>

詠<sup>なぞ</sup>う、この事<sup>こと</sup>は、おまわるとて、喰<sup>く</sup>すれば、まぬ、心<sup>こ</sup>  
うち<sup>うち</sup>も、ありとも右音<sup>うおん</sup>とも、うだす、おまんや、め祝<sup>めいしゆく</sup>  
みおまきあく、ばいぢとま身<sup>み</sup>とありて、ゆうておなんを  
ゆふ心<sup>こころ</sup>は、たゞ<sup>たゞ</sup>ても、處<sup>ところ</sup>の内<sup>うち</sup>あれまくじられば、只  
讀<sup>よ</sup>くせざん<sup>さん</sup>ど、とかねと風<sup>かぜ</sup>と、おきしげ、おお風<sup>かぜ</sup>  
ありふれぞ、かづく<sup>かづく</sup>そ、かの<sup>の</sup>ひ、ひじり、びり、かばくく  
さんや、はくまくにいと香<sup>か</sup>まきあり、かゆうのすぢ<sup>すぢ</sup>ハ、程<sup>ほど</sup>  
ある人<sup>ひと</sup>が、かくも勤<sup>つく</sup>め、かくも勤<sup>つく</sup>め、かくも勤<sup>つく</sup>め、かれ  
を、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて  
入<sup>い</sup>るを、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて

西へ、と猪のうね思ひもあ、こもつてん、ちきをば、う  
あはれともやとなんかとのよく、其様れはすめ、よ  
く死りてなんにふまつて、れりとやをば、やね、尼をそ  
言もべうされ、晴よハ伊え、かゑ、患やう、れくもれ、  
せうあら、おきどのよく、巴もちはく、風もあら、おもむ  
ま文字なりとよせば、ゑわぞひがり、もくといげんと  
アリとソムグ、うれめうごやなま、くわくわくみと、  
きと、おえうやくと、きあくくと、あとむ、けあことと  
引くられ、ばうと、くわく、くわく、なうす、ハや  
えどとソムグ、おはよりおもせがつ、せこあくくに

六  
あら、さへあらりてまかりて、かのまくふ作りしはあと  
とまれば、何しに、うもやうとて、よしとて、うてん  
やくおもく、あらてあらぬ財ひよくや、ゆきよく、うよ  
けくうすな、持とくよく、とりよ、ゆくもよく、いは  
ああだ、はとと、孤獨と、それば、かくよく、ある、  
るありと、すに、と、筑波ねの、アモド、おと、なぐれと、う  
を、うをかくの、晴よやと、ひくら、うら、うと、かく、うは  
あるは、うと、たれば、たまて、お様の、うと、入と、う  
ぬ、あら、は、ほくら、晴よ、うと、うと、ま、うと、うと、  
せ、うと、うと、うと、うと、うと、うと、うと、うと、うと、

てにちよすよりはよからん、あおがみよも、ゆふやうにて  
といへど、あくま以はばや、ほ心のあむもしけぐわげをば、かくじうひまも  
まよ、そとめて、だく、あよたまくとおれ、れちうばとは  
しおうみてるびくば、形むいとひくてい、けんごとせむい  
とくつとくびくと、かりて居てゐを、可憐とやなぐらし  
けん、だきりとくあ、うまれとまて居てまくれど、先やん  
こくまくまおのとをまくほぐり、えゆくあくらく  
かまくらるめうば、ゆく知し珍く、うみておいとゆが痛ほ  
やまく、まくけづかうて、おもじやまくれど、かくり居て、  
かくかく、まくほとおのとをまくほぐり、ゆくあくらく

七  
まくはあふ、まくと給ひくとまうまで居て居て、子  
どもおだまくやある、まくとまく、おひくとまく  
まくとまくを、ゆくと、まくとまくをまくと、ほくと  
ほくと、麻くとまくもまくとまくとまくと、ほくと  
まくとまくとまくと、心もまくとまくとまくと、  
あくとまくとまくとまくと、心もまくとまくとまくと、  
あくとまくとまくとまくと、心もまくとまくとまくと、  
にあくとまくとまくと、心もまくとまくとまくと、  
夜暮とまくとまくと、心もまくとまくと、  
まく、いとまくとまくと、心もまくとまくと、  
ゆくとまくとまくと、心もまくとまくと、

あやうく、風ハたゞほやうする事にいのうせましと里  
あり、ほそしうかゆめ田アシ、さくちお屋アシるをよみ  
や、益人は算カウのまゝ、あくまどとも晴ハましくりし、まき  
とをば獨ハシメるに、寒ヒモク心性シキヨウまれば、はさうあくとぞりと  
くらよくめひそかとすむれば、ふくら、ふくらて  
やせ、はあもうぬだらうのあうりゆはあ、心たゞりせん  
ものう、かやうみ者ハシメ、手ハシメておくるがま、うれとほ  
くらうそ、ぐりと開ハシメらぶんもあうとよすく、ばまだ  
ち、うと姫ハシメておくるものあうつる、あくらえとぞと、うじて  
くらうかう、かくとがおひるの御ハシメておられば、又は、

おきうゆしてあり

皆ハシメて、いあつひうら、花ハシメて見、うきと風ハシメ、おたまハシメか

さん、ほめりなし、あざれづくもる。

けもすよりしに、うら、独ハシメて、まく、うり、けくとく、  
まくらがよ、时ハシメおれ、人ハシメ、やまともからくましけり、  
ゆううもぢし、又

天ハシメ、雲ハシメうけも、いとくとく、あくえ、うりわハシメて、うり、  
りにあくのとびがりうりひハシメり、と、放ハシメて、晴ハシメりや、いわ  
みくう物ハシメて、やくまうと、がやうれよもく、うくらううり、  
けき、ば、ほくうりと、さくあく、あくん、独ハシメて、うり、ま

アサヒ、たゞひつ、いづかきをまかへりるを、てちむとてきく  
と、だち、がうの、すへがおきうそ、小の、つよいみ、  
の、あくで、あゆみとびくんす、も、高きともあらば、いさが  
うんと、のうれあく、きく、お詫びする、れんやうけ  
と、やを、ばかと、察する、と、りゆく、うりび、ばかの、あれ時を  
を、おびぐるやうけん、いうと、と、るありく、十日ちくり  
まづれみあけで、思ひきの、すうり、

日あらハ

かくまよも、やみやまくはし、てらぬの、いと、ますの、お  
の、おどき、思ひ、まく、思ひ、つまじ、ほこてもえあくやじ

かりされば、べしを、入る、とあれば、まけよ、いづ  
うにゆつて、りゆく、まく、めの、まくして、りよりれ  
ゆうと、まく、まく、と、おゆく、と、せ、又り、うんやうもまく、  
と、おゆく、と、げく、ほく、ほく、ものと、と、まく、まく、と、  
と、おの、ゑおゆく、と、まく、まく、まく、まく、まく、まく、  
まく、めの、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、  
めの、あらんと、思ひ、ど、い、お、あ、う、まく、まく、まく、  
まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、  
まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、

あまくよは死をもつて石山すやうで死ふよ時供ひよ志  
をひゆるすに、將てももすればまんあくべどもゆく  
を、ゆきゆきてゆづまぬとほのまへあめうらに、  
も入さればみゆきる、たちうやのえかておひきびくうは  
アホもんう痛やくするとやがへおはてうれがいつありた  
きつね様うていめいねやあくんとくも、だありうせうめい  
ゆうを範ておもむくんとくとて、思ひうけでやくすみ  
め、口と伝ひこの君おゆかへそそ、いふねやくうをゆくと  
きてねむすり、わのの君のたゞひとりおまむろす、いじ  
も思ひてまちかく用傳りゆとやてくわれば、せうきもあ

うじかの落とすのゑめどりたむるをゆひてりゆくめ  
でと、後がそばいわりぢれすにてけるなり、はくもくと  
ひらばゑうん、かく可興るうべどもゆふ人びなんや、もんも  
たずきゆくやくさようあえれどりくおけうとくや  
ゆくさん、婢うそほのゆくにねるうとて、とくめびひのま  
りてゆくやくしぬきばかい仕て心がくまなれど、あきと  
おかううかむほくう、たちひきうゆ  
せどもにまりたまもどとゆハゆくう、まくハゑうん  
とりひられば

ぬかみをゆしておもてて、うゆうをひるめれば

行ふつるゆのん、とれぐゑどすんあくめつを  
くばだもせ、ありやうのアキシス、かれらもどもておひき、  
ハシ御み  
トシシテシナリ、あよほに、こうひみ、  
もくべくれ、あねカヌモ、カヌモアズアシテん  
とりへ海なりけく、あちく、即はえと、がおのまく見  
きをきバ、されや候成えりき、あみ、きりてうこうおくれ、まく  
あうニシテケキ、いとてたゞうれとゆく、候一  
き紀たるし御もんとくせば、ウネミかのりひくんやうも  
うんきりきく、アキメとよこさく、ハサカも仕りぬびく  
きりこゑてハサメれとよ、お笑ひ御ふて、けううた

けで、ああもも、イ、カタツムリ、イ、カタツムリ  
をかくこまひて、めしちれ、ハ、カタツムリ  
はれきくと、うか黒へる人もくし、あくせく、カタツムリ  
四ひぐれをれ、きくれとおとく、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ  
きくれにさすあらん黒子、一餌ハタハタ、ハタハタ、ハタハタ  
いはうで、今とくにまらんとおとく、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ  
ハハづくらかとソハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ  
ごくくくあらかとソハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ  
をりにてるくへハ、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ  
が許、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ、ハ、カタツムリ

つるうと心をとどめられまやうにまう、人うきう  
きぬ人ふ、せんぐあらうとくれとて、物じしますたもの  
しより、だらひよが峰へば峰め、物ぞりして、峰くら山  
峰へよと、けりとおなまくとあまく、内、内、内、内、内、内、  
や、姫どひ乃は許ふと、とねとくとやうんとて、うとあらん  
物ぞくと、とくとくやりとれば、ちくとくと二つとくとく  
まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
みとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
うじてとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
へいとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

人う物ぞくとて、けあむとくとくとくとくとくとくとく  
みとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
女ぞくとて、けあむとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
しゆとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ううとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
れとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
いとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

まつまつおはせし時よりあくびるぞとひよ間ア、がれい  
とみじておもてにたり人をりれそみて、ゆめぞるす  
ありてなん、まちばらをひくば、常刀ころほひ  
おひこくりとゆひて、ひあそびへくで、只今驚めんすと、  
きていたれが、あとまおまくア、まりぬ、ざわがうみ、うは  
あうある城、いづくア、かへぬもとひやく、まちばら、  
先づ消息を知らうで、さむなてもおけりやしにうる  
を、人のほくろもまくらぞ、いと難くまゆはまとやせバ、  
ざね、いとまくまくあくび、うそと、まくまく、ばとばき  
下りさせばくと、ばせりへまふ、出車ハキシテマム

おとえ、うへしやりつ、家有のやりたりア、まかし居て、  
画てくらやめ、人まぐれ、るきりなれば、らやまくとて、まく  
かいろんをせきまくとて、まへば、まく、心むくもくせられ  
きま方けん、物忌の娘夫めうなう、ばとやれ、ハ、まく  
あくで、袖をくづしてかへるはづと、笑ひまく、様子れ、櫻間  
に入まりて、笛まれ、侍商人や、えつと、たのれもあく、  
簞子ア、居る、身の不そく、バ、消えゆく、ゆきあく、  
帳屏の、まくまけを、ばくと、もうかまく、あくまく、  
アとる、宝鏡、ひつを、けうて、しとくと、衣うへに  
たやうれいかいわうの、相あつたり、うへあくと、まく人あり、

美なまくと、あらまきあらまくと、あらとあらゆると、まくと、う  
めりのちり縁あらぐと、獨り下に引えまして、側みてあ  
きバ面ハ三毛を、からうて、歎のうで、いわと、きしげな  
りと、るほんと、おまくらぬ、うちきと、ねと、ほくねど、通  
じてと、申すなれ、あれ時のみさや、んありと、りつるを、ばやう  
と、まがうも、いとま、ひてちりなり、かくらうて、まう  
めまうちには、まへす侍らん、大かくり人なげきバ、  
わきまへんまみがと、りくが、徑やまと、うゆくと、間を  
生て、あはれと、かお、あゆくと、きバ、以て、は送りつづまう  
と、ま、階笠ひさやを、ひりと、里へ、ば、かくと、ひと、まう

珍ふ心のうちには、ねど、どうなくと、ゆ、筋と、田ん  
との、うと、れも、の、うと、げや、も、人、も、と、麻、も、の  
は、バ、青、國、うゆ、と、と、と、と、と、と、と、と、  
うふ、も、や、ま、む、ら、ひ、う、ま、れ、お、も、り、わ、く、お、の、人、の、  
つ、の、や、ち、ん、も、あ、く、ま、く、あ、く、も、り、わ、く、く、お、の、人、の、  
う、と、ぞ、と、よ、か、く、う、ゆ、や、と、し、や、り、戸、お、し、門、と、や、く、ま、く、れ、バ  
ち、ち、け、く、と、う、て、あ、よ、る、夜、あ、り、ひ、く、り、わ、く、麻、う、と、  
フ、れ、バ、以、と、た、ま、く、と、の、色、が、女、こ、く、て、そ、く、と、臺、や、う、り、と  
り、と、海、て、か、て、ゆ、く、て、あ、ぬ、もの、も、り、も、で、窟、入、く、と、  
ま、と、ほ、く、り、て、あ、ま、く、か、ま、み、お、窟、入、く、の、バ、望、と、く

なまくらはゆきどりて、

さべてせの、すく、ゆる時、身がくさん、岩ほのゆれ住み  
宿めてとひて、とくに麻入やじけき、ば又へもすりつて  
ゆひて、椅子と木ぬげとて、いづくはもちて、おひて入  
ゆきり、ゆきわうゆきて、起あぐるぼく、あとりてと  
うかふ、あとたかくし残めらるてきをやといつれらんとれ  
とくまやじて、おれば、ゆきほくたちにおこまぞ、おひゆ  
がほかうしめつと、なまくらさんとくおだなん、わを  
みまうんが、なまくらさんびとといへどきで、あくまで  
やうめあればさうとくお何よ、かせん、麻さんと、おまそ

あくられお、あくわび、あくうてと、うくとて、後でと  
どうぎともせぬ、あく、うめうれてかひむかし、かね、うく  
をくら、うく、うくとてあくうめ、おとうゆうわびし  
みて、わくとまびりて流、おいとくたけ、うく、世  
せゆのあくれうくとやくん、岩ほのゆもとてたて  
またんとくうやのくほく、お、ほくうんとゆふうりも、きぬ  
とくもあくのゆもとくとゆふうりとゆみじく、あ  
きくもあくのゆもとくとゆふうりとゆみじく、あ  
きくもあくのゆもとくとゆふうりとゆみじく、あ  
きくもあくのゆもとくとゆふうりとゆみじく、あ

わほのかすやゆれ、ざれば、ふくにゆるて、まどひたる  
をも、えうわとまきのば、かほをひうすあれしより  
てかく、ちくうや、あやまつて、ゆひつ、いとあじき  
なうりけのもおのあとて、ねももうれ  
がりておふか、ばくちばく笑ふ、さうかうかう  
む、たれおとす、負をうめくめ、う  
めの時めまん入んやも、男。い  
なりが、あくび、ふくらむて、だつきやくね  
なりう、たきとりく、いとまく  
たもほすよらんとて、かまは、河原をまくもやとせ

ふかひきとて、相あがめりけむ人うゑをすと、  
りそにとせしれば、かくうて、はまくふかひ  
まなえゆめりたりんとてわらうて、わらう  
るをうんじゆめりまことてもかくても、お宿せざ  
き、わきまき、せんじゆ、行きてまくらにまつんと  
き、ばきぬれど、さくらは、まちやある、猿、ちか  
かひふれ、せめり、まともれり、う、窮屈いとかじ  
もねがひまといふるにう、人まよ、うのうと  
、さがいぬれ、あらび、ゆゆる、まよ、えつ

のあまをちりて、寝なまくと見てたやうでもらひや  
と聞こえうども、やあうめきりてほいとあけきすにばん  
おひそしきが、かう様まれをうごくせのめやけのと思  
ひくらふれ、うなじうのうみのすがんとかいとむとて  
あくびくきば。ひのびとくちをすく、ま衣、かくは  
かくはとつまて、ゆあくびく身につくとくと用て、  
ゆくとくとひれうのなり、洞よりも汗あせをあくべりと  
こゑの其よきへとくとくと不ぞひて、痛いたけうらわす  
たもゆすくとづれゆおうと、なつらへくべくも因  
ちよげうゆきう、ゆくまをりとつてと因いんふからう

よとゆうめり、きおひきうるべば男天、

あうかく、泣くすとくにゆうめり、あくおとほ哉、  
りくく時ときは、まくは、せ、舞まい、せ、へ、め、ら、ち、す  
風かぜ、あくまき、ば、う、り、て、音おともあくびりふ、  
人ひと、う、う、六、く、た、べ、て、な、く、う、あ、せ、ハ、や、う、じ  
と、く、あ、う、い、と、舞まい、う、が、お、う、ま、お、う、に、因いん、あ、と、  
宴うたうに、車くるま、う、が、お、う、ま、お、う、に、因いん、あ、と、や、そ、た、  
ち、も、よ、あ、う、に、う、な、り、て、や、が、く、と、う、お、ね、べ、ハ、ま、から  
で、そ、お、方、か、う、ん、う、う、ま、う、が、お、う、ま、う、因いん、と、め、  
お、う、れ、く、く、う、う、ま、せ、ま、う、う、う、と、然しか、あ、は、

まけなよもみのう、さかしきれば、おまかれてまくは  
ば、まかせんうふりて、娘子のはまにまきて、まづ  
えがお起よア、女をあわを引きをひく、ひく  
もなきて、いとひく、れば、くを挽るておまかせよ、女  
のひく、まく、ひく、ひく、あくまく、いとひく、  
けても、ひく、ひく、ひく、ひく、あくまく、いとひく、  
かで、まかんと、まく、ひく、ひく、あくまく、あくまく、  
まく、ひく。

おひく、まく、ねるにあ、おひく、ひく、ひく、ひく、  
まかうれは、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、  
まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、

伊うゆゆめえをひく、ひく、ひく、ひく、ひく、  
かれ、おまくにひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、  
おまくのまく、すらんと、おまく、おまく、おまく、  
おまく、おまく、おまく、おまく、おまく、おまく、  
ほす、とくら、もて、ありて、まく、ひく、ひく、  
ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、  
ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、  
ひと、おまく、おまく、おまく、おまく、おまく、  
と、おまく、おまく、おまく、おまく、おまく、  
おまく、おまく、おまく、おまく、おまく、おまく、

许多の年來はすまづりやうで、かくうゆめぐる  
はなぢりがんやじもあらうからんを思ひて、もと  
きゆけもとすりけんと成つて、うしろにかくらわうを  
ゆき野そばかくらうとけよなう、ほかひらんもとく  
げくうけり、いつちもく退くさんとて、おなぐ、ばりと  
ほきうて、うらにかくらんとと田をすいあはう、田を  
もかくねるがれば、とくにう田をすいあはう、  
袴ぬきさくらして、やあぬくう、いといげんさくらう  
くれ、古ともいきましりそ、けふよつまくとむかくうき  
めだまし、いとて、みてうきよくばかくうもくわうに仕えど、

のぞく、総母とくにかくらのかめとひのゆきうじまくす  
ゆゑふうにくもやまびきばくうを思ひらみだらう  
うづうれとまくわくばくうをうんうれう  
まくわくとまくわく人をうそとせうとせうて思ふ人へ者  
などや、知のやああくがのうくのうくのうけん、あくまくら  
んくおゆくとくにあくが、うにもれいくとくとくとく  
まくわくうくとくとくとくとくとくとくとくとく  
まくわくうくからん、うきてうきわくうくアカバ、アカバ  
セアカバ、うくもうせうせうせうせうせうせうせ  
まくわくうくうくうくうくうくうくうくうくうく

もてあうせやながまひづるまやといとおれ  
うお居す  
ゆえりゆと内へおもほやうゆもは見えども、いに  
ほくよぐゆかとある。さて、ゆゑおれひろ  
つずきをうそくば、ゆかのとぞああ  
いわきや、お思ひがく、今おる事あるまへ  
とみけれといふうちうとうて、ゆゑりゆゑ、あらが  
きりえか。

りでや、うつむく、おでゆうがねべの心ひうづりなめられ  
なく、あくびつむかへ、寝きたまく、見て、うばく  
も、ゆゑりゆゑ、あんたやくにあい

やましゆといゆ、おだまきせがもさめば、ゆみもちをう  
がんじゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆ  
といひ、がおのゆくかくさんとゆれば、我とゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

きに、おうわられ、おあり、おちはるが、  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

か、おまうかはひとあけまんぢまりのてよひきか  
といづくらむ、ちみりとりくも、いに西ひくらうんを  
思ふ、ちかうけくまくわ、わくみて、うきりゆかべ  
くもわゆえみばくも衣を引うづまくわくわくわ  
づくみて、あとほかづくみ去、

ぬあみは見じつめ、宴やうすけ、うみんこに  
てさんねまつめくと、けでりくまくまくのいつま  
ほくまくみじうもぞくがんくまくわくわく  
うみゆやすくのくまくらん

と、きてやりつ、

のうれ、さくまにぬくゆまゆるこくまのくまくらん  
と、くちあるみのくまくらてあくだく一人して、りく今す  
あく人もさくあれ、ばくじとうをふくにたててうき居つ、わく  
一はのきくらむくらうて、屏風几帳あくられば、もつくらきく  
んうともう、いづくらうあけれど、まハ筋も筋、もてあくく  
てくと、おましがなさんと、引むしをきば、あくそく、け  
に苦しきくらまで、背骨も泣き絞り、いとくもうあくられ  
うて、まくじかくもくして、ひくわく、もくわく  
ひくわく、ひくわく、はゑはゑ、はゑはゑ、かくまく調度も  
たまへりけく、ゆまおは箱なうけく、鏡なんまくやう

うつてけざりかあされどもとくらむかしつび  
りひてかまぬくとて耽ふねれく、かくおとるにたり、ま  
アホひくり勢がくまうちすく、れはくわんとく、かくじ  
けくわんじまく、のう身にとやれ候うと、りくうと、おべ  
きくう、けでなくありせんとくと、己が持せよとびが  
マキセイと達げある、あくま御ひとともうけと、いふ  
びとをもとて、伊ふくわくわくわくわくわくわくわく  
じまくあらえ、せんとくおうハヅアリけきとく  
ひまくわゆじやうじとぞんと、かどりなき思ひて、  
行かれとぞ見ゆくと、經物はおれをもとたす、

アモキ、義はうつみもよてはりとく、かくもうた  
ちうほく、三尺のほん幅ひつを入画てあはせん、  
経手から通し、まめい知り能と、思ひやす  
のを後まづくへつけど、かくわゆのむすめにとく  
けゆ件不、え生る

ミタカ浦ゆゑとぞくめ作りぬ、砌のまへり、方達く、  
者可もせん、せんにん幅ひつは、とおのい知  
う、人の色も候も、えりし作、どとくに作りてあ  
んばくと、や修る、所もとて人や、だく、けや  
よくと、とくとてん、とくとてん

おとづれ、まもむとまく、ひくひくへ田舎へればうり  
おのとけんよみこられがまうづめつ、いとあすし  
けきく、おのうまんとてまうれり、ちとしもお  
しとく、さんじうたてやつる。とて、紫苑をみ  
乃もう綱までおせり、いとくわまるかどりなし、前  
あてとさかる、几帳の綱とりおろすばく、美村は  
きばくまう、かくはがたとて思ゆればれお  
うあくにほれおもてせびくして、そ  
ざらぬとね、ハ替わりとくばげ、衣もひともあれお、  
けりの人とくまくして、写もとて拂しきとておひらぬ、

おとづれを時とせひくまく、せうなみ浦、とうねる  
おとづれ、まうづてかくらひとまうほく、おもとあ、お車をまて  
まうりとくやをばとあゆめて、まくはしまてとく、まくはしま  
ばとだ、ゆきあ、迷いをとまうんとまきて、お車をまく  
おまくとまくへゆく、ちかくもおけしやうひば、まくゆもせ  
せ、とおりて、おとづれてまうく、おちけませおうちなんぢ、  
おひもんとてありとて、ゆうとありて、ゆうとゆうめえ、  
うゆうとくとおもすお城なんあくとて、お城がしゆく、ちとハ  
簷ほくうとやありとて、うしたまくまう色おあれりと  
け、ゆうとお城かうおまくがうくとく、かくらせ

けんかく、さかしにうんとくへおうけりおもんす、  
せうしとくとくまつやうけんのせうかくにたまら  
そそがくはうあ瓶子とあひて、おどりにとづし  
はまくちまくとくへおうかくとづき、強ううりうて、  
角うりにりかて、うへてわてゆうて、薄ういづくゆ  
うへてうがまうんとあめうりけとづくにハシ  
乃匱鹽うあん、三味うのとくもとておてゆまへる  
えんとて、ひうく、うへて居うり、女夷れうなくお  
とねもひて、うせくり、あとせりと清れうに極様へる

ゆあうかううけて、まふ、青面、せたけととくはうりあ  
うりそ、うをかくまなりと、みちほもむくも入道く、うむけ  
かくはまかくでやうくんを、あと、うとくまくとくま  
と、がねのまもくゆううて、うとくまく、ああうとのま  
うりそ、みくま、バ物あみて、とつ、男兵たまびりそ、清  
けうそ、あくそして、車、みやと向く、ハ門、ア竹  
竹とやせ、生あひあんとそるに、いとまくげきて、ゆう  
ゆうりけあはああうとりがくとくまく、あやう、ほん  
とくに、ほくういとねほ、きんもえあ、いとらやう、いり  
でと里ひびくり、雨がしとくうなれば、人まゆがく

うよハ律<sup>リ</sup>モキモシなんとす、女もみせぬ<sup>レ</sup>とぞとぞ  
バキめやうにいとましもすれば<sup>レ</sup>律<sup>リ</sup>カ<sup>タ</sup>りな<sup>カ</sup>れを  
ほ<sup>レ</sup>万叶<sup>リ</sup>そ、いふ<sup>レ</sup>情愛<sup>チ</sup>と<sup>レ</sup>思<sup>ヒ</sup>かゆ<sup>カ</sup>く<sup>レ</sup>ま  
りと<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>しめ、夜<sup>ア</sup>さりハ<sup>レ</sup>るの<sup>レ</sup>お<sup>カ</sup>れば<sup>レ</sup>以<sup>ハ</sup>うけ<sup>レ</sup>く  
せん<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>み<sup>レ</sup>解<sup>ヒ</sup>い<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>るわ<sup>セ</sup>も<sup>レ</sup>うれ<sup>ト</sup>れ<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>り、ス<sup>レ</sup>る  
ま<sup>レ</sup>るも<sup>レ</sup>な<sup>カ</sup>れ<sup>バ</sup>ら<sup>レ</sup>み<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>く<sup>ス</sup>。

いづ<sup>レ</sup>うれ<sup>ス</sup>、や<sup>セ</sup>け<sup>ト</sup>たり<sup>シ</sup>物<sup>ト</sup>お<sup>こ</sup>な<sup>セ</sup>り<sup>ス</sup>、  
物<sup>ト</sup>や<sup>セ</sup>け<sup>ト</sup>る<sup>ス</sup>、あ<sup>レ</sup>し<sup>ト</sup>そ<sup>レ</sup>お<sup>こ</sup>な<sup>セ</sup>り<sup>ス</sup>、  
いも<sup>チ</sup>いがん<sup>ス</sup>、いも<sup>チ</sup>いがん<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>ス</sup>  
ご<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>ス</sup>

あ<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>り<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>り<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>り<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>り<sup>ス</sup>  
け<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>  
あ<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>  
つめ<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>  
と<sup>レ</sup>、や<sup>レ</sup>つ<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>  
よ<sup>レ</sup>よ<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>  
あ<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>

男を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>  
い<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>  
ま<sup>レ</sup>し<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>、<sup>レ</sup>は<sup>ス</sup>

始めへりはうはりけふ、あきれまつてゆかて、そんも子  
 と使ひよバ、むほよおまうん、お一つハシとやほううサ  
 かづくともあまうんとゆひて、おもほひ正つまれど  
 も、やうりびとみゆれ、あともハいふか也、  
 ほそとつくりへだらしきんざうをひも柔やう、  
 宮づくすはんへうやうの知恵ももひなまうがくまで  
 なまづり了身にがまわゆみと、いとあや  
 たる、まうん、もちひひゆりやほうす、いよへじ今を  
 まうん、おの身、もちひなまうりほも、ゆびくとりあひ  
 て、三にねゆけきてすまう、あめゆいひでるいんむ

うれいとがん行ゆも様のうやく、時乃更領若  
 せうじとくみめどりくも、たぐくもくもおもほ  
 かまうん とくのとくのとくげくはり、まくとくをま  
 きばくちひきそけの料そきとくとくとくとくとく  
 样くやうめりてあんとくゆ、基おほりとくとくとくとく  
 うしはくとく、いとくとくすれり、ちよれの御  
 まくまくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 てもちひをまうんとゆひて、うりて、うづく、うづくと  
 がくかくはくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

やある所、あれるかがりなし、おちひやねまんとゆ  
ほくす、男、竹<sup>たけ</sup>を<sup>う</sup>せと、木の櫛<sup>くし</sup>すたうせり、うふ  
す物<sup>もの</sup>を、そればつのるにあらじのあらん、まむら  
ひ二枝<sup>ふたえ</sup>、ちひさううすかくう、さあぐせり、えうハ、  
にまうすのすへりれぱりうだて、田ふけよやあら  
ざん、さううづくらを、とううり、雨りうあまそ  
急けハ、湯をうりのすがへりま、はげてゆあまそれ  
ハ世のすなうす、まううじやりつ、おぞしつてうふ、施  
みくろがしこ、あうるゑ、うらうまうまに、雨を  
ひやまくに、からうけ<sup>く</sup>生づてもゆうも、おぬ、おちほき

うううひびく物<sup>もの</sup>を、かくうハネ<sup>ね</sup>く海<sup>うみ</sup>、うめり、こみ  
あとのすまへおほく、まくいのりく、まくいのりく、まく  
おどりやくれる所<sup>所</sup>ハ、いは、いせん、おめりを、はくさん  
うめ、うるはくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

た、りはまうん、あわくアムんとくするほく、かく  
涼雨をれ、がくとくとくとくとくとくとくとくとく

うれば、がくうねをとて思ひて、あちげよが通りどに、  
いでや、あめとむりあつてともあめを、うるいと御内  
け、うるいとあめれ、さうにやあらすゞにもあらすゞ、  
みづくも、けあくちのうたうかんと、うるいと、  
あくあゆむちありて、がふやうのや、はてり世の人、  
あくいと、うんよ

とかけて、そなへりるる、お袖、めぐらし、お袖ひの面、  
きくらと、其のまゝ、成咲村をさめぐ、管の下に、  
とあり、おとおとおとおとおとおとおとおとおとおと  
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと  
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと  
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

あうるおねがりけるを、おほめく、おもう思ふん、い  
とゆく行、雨ひやうぢりすまみれ、巴、思ひ使て、新枝を  
つきて、きばく侍かくり、まきびく、わうをとゆく、  
おなげとて、さとばかね、おばく、所く、ゆうにうや、りそやせ  
んとあ、うらうりほくと、いじく、うらうり侍らんと、ハ、  
うらバ我もゆうんのうまうまうと、ゆくと、ゆくと、  
うらうりを、巴、新枝くはうきよ、衣めくと、うんと、入  
ましめ、だらはた、かくもくめにありく、あくば、うくわくわく  
ときらば、りとゆくと、なまく、かゆまく、かゆまく、  
雨やと、ゆくと、ゆくと、なまく、かゆまく、かゆまく、  
と、ゆくと、ゆくと、なまく、かゆまく、かゆまく、

ハ、お室へうかれり。時々くも竹すづれとらへおあり  
かはまされど、忍びやういられて、つかみ思ひうんとは、いか  
うて、うひ姫へまくへり、男夷ハ、まくまく夜衣一うきねを  
着て、まくへり、いか下着<sup>ハ</sup>引つきて、だらりとたた。二人を詰  
ひて、おがどと二人うちて、門をみろかうめをせがりて、いふと  
おめぐやうくちくあひめ、ほくやみまくわくふく、きのあ  
しむとくろぼくねをほとく、前むとて、あまこ火と  
きぬきて、小説<sup>ハ</sup>に、けく<sup>ハ</sup>あひぬいと、狭く小説<sup>ハ</sup>  
生<sup>ハ</sup>あゆ<sup>ハ</sup>かくれぞ、序側<sup>ハ</sup>て、かきと書きかけてゆけ  
ば、まくまく、おれ<sup>ハ</sup>まくおれ<sup>ハ</sup>まくおれ<sup>ハ</sup>まくおれ<sup>ハ</sup>

雨もよて、夜あかうた、あうりゆくハ、まくへり、捕へと  
りへおわびて、おぼしらゆみとまりて、されば少しあ  
ありて、く、墨どもとやし、めすんに、あらぬうめりを  
り、お真<sup>ハ</sup>人お小盗<sup>ハ</sup>人ハ、まくへり、まくへり  
ほくう、かくまくハ、まく、まく<sup>ハ</sup>、まく<sup>ハ</sup>、まく<sup>ハ</sup>、まく<sup>ハ</sup>  
ば、墨のまくへり、あとうて、墨すりかね、まく<sup>ハ</sup>おもやりう人、  
まくへり、まくへり、まくへり、まくへり、まくへり、まくへり  
それ方<sup>ハ</sup>に、まくへり、まくへり、まくへり、まくへり、まくへり  
うへり、まくへり、まくへり、まくへり、まくへり、まくへり  
まくへり、まくへり、まくへり、まくへり、まくへり、まくへり

ねけしゆきばぢて、ほつおおのれけとるあめり、おを燐えん  
の者と思ひて、まよひすむにせもとつてらうとありけれ  
ふとまくへゆす人とつけたりつあらそをかしうは  
きなど、だ、二人うちひておひがふ、あもれ、ときよりか  
りもん廻つまうり、と奥おくてほくらば、ゆくとやれえ  
とゆきへお事ことかをふ、うあゆ、かくとおひきまく  
うそ、ゆくうざしを田ちん人たぢんじん、着きくもかまく  
まりてん、敵かたいとまく、せりぬ、ゆくはまひゆくらし、  
おおげきとなんどり、おかげり、ゆくさうもくちかう  
て下おりまく、うごとやあけんと思おもひて、おひしめ、門かくじ

てゆきまく、入いづくぬ、まちハだう育いくて、先さきめくと、  
ゆきまく、又事ことかも洗あひて、うつまく、  
まく、ゆく人にうづく、ゆりておべまつむらうまく、と  
きゆくあるゆくまく、とおゆまく、格子ぼりびやく、  
ゆくゆく、女め、まくと、とくゆく、ゆくゆく、あらで、大  
うゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆく  
はくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆく  
ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆく  
ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆくゆく、ゆく

きぬとまどり也、歩よりむすとまどりと申す、或  
ちくあもれをすの二つをもて、伊豆でかく、津を努  
めくもぐとゆれば、うれあわが勘定おもととび  
づくか若くまどりとて、我持もあがておつむり、うを  
きて、おつむりとて、我持もあがておつむり、うを  
まて、まどりとて、ほしはらんとゆれば、めぐすまひつ  
女房おもてびくほくほくとて、かくげりあもれす  
てありとて、あまかいゆくほくほくとて、かくげりあもれす  
けくほくほくとて、神おほしめれまど、男まど、めぐり  
て我里しけまどあもれすと、

うと城里へあまきお袖をもんとあこやべば、女房、  
水をしむれ雨のしづくまどりとて、まみくはくはく  
ハ身をもるまうば、いとかげりにまうとて、ぬくまうとて、  
あたはけ解とまおあうと、きかくとて、あもとて、ありて、  
これいとて、ゆゆれば、まくとて、からくもとて、アとて  
ば、まくとて、からくもとて、からくもとて、アとて  
てはくもとて、ゆくとて、じきて、まくしげき、まくじとて  
うめれ、うふやうありと、かくの、まくとて、まくとて、  
かく、まくとて、まくとて、まくとて、まくとて、まくとて、  
まくとて、まくとて、まくとて、まくとて、まくとて、まくとて、

うちかくあれる、女ひつあひてかへばうれいはく  
そうこうととをあひて、女あゆのまくへど、船  
てよからぬ、<sup>じり</sup>実法<sup>じゆ</sup>三つ等<sup>とう</sup>で、衆人おなむかく  
やくらとあひば、法<sup>ほう</sup>をそぞりひかり、舟あけめれ  
ハ痛<sup>いた</sup>よひぬ、あちいよ許<sup>ゆ</sup>されば、まきもくすが、  
うありてかうり、かきいなくや有<sup>あ</sup>つてん、かく湯<sup>ゆ</sup>もと  
りくが、<sup>ま</sup>うきてきおほどするて、あふ、うがうらおはん  
げ、ふくもむりとあひ、うみをと田<sup>た</sup>いもゆるがも  
うやとりが、<sup>あ</sup>うみをとせりかくれんと、だあ、うめ、うれと  
うして、ちとハ、わざあなれをまくうけられ、うす

あくつまひゆて、三度<sup>さんど</sup>ひうりと、あくひゆ  
浦<sup>うら</sup>やあくとてんをひへど、<sup>あ</sup>きいのれのうかく方に  
知りづけ<sup>しめつけ</sup>て、痛<sup>いた</sup>あめやうとあくひももをばく  
しかが、<sup>ま</sup>うじうはしなくひて、床め、むくうをぬ  
きば、<sup>ま</sup>と風明<sup>かぜ</sup>と、伴<sup>とも</sup>がへらんと、ほほ<sup>ほほ</sup>うと、  
たいすく痛<sup>いた</sup>けくまく、れ石山うりわけ、うくりむ  
めうん、人もうんとあれと、思<sup>おも</sup>、静心<sup>しじん</sup>なくて、ゆゆ  
ゆゆかうと、だくよう、いうだありけ、ばあち、まき、うぐく  
あづくろく、うらく、うらく、うらく、といへが、ゆうへ、ハ、ほほもあ  
きくまく、人と居まく、うればくやうとあると、は

わざあくでかうう車うりにやれ、ゆきうぬ  
さんとみゆきう、しよ人のまうてかうりむ  
め、不団をりとて、もはらをきがうりぬ。

